



令和4年度

江別市事例見学ツアーの開催報告

北の住まいるタウンの取組の事例視察として、令和4年度は2回の「事例見学ツアー」を行い、1回目は江別市で開催しました。

江別市でのツアーのテーマは「生涯活躍のまち（CCRC）」。

住まい・障がい・介護・就労・多世代交流の多機能拠点「コルクえべつ」をはじめとして、子育てひろば「ぼこあぼこ」、地域振興・地産地消にこだわったショップが並ぶ「EBRI」、6次産業化に向けた取組を進める、都市と農村の交流センター「えみくる」を視察し、各現場をご担当されている皆さまにご案内いただきました。

日時

令和4年10月14日（金）
10:30～16:00

参加者

20名

ガイダンス



視察先に関連する4つの部課のご担当者からのガイダンス

コルクえべつ



生涯活躍のまちのタウン型モデル 様々な就労支援も（トラフグ養殖場）

子育てひろば ぼこあぼこ



商業施設内にあり天候に左右されず思い切り遊べる空間

EBRI



近代産業遺産のレンガ造の工場をリノベーションしたローカル商業施設

都市と農村の交流センター えみくる



6次産業化支援や農村住民の福利厚生機能も

参加者の声

最初にガイダンスがあることで、その後の見学がより理解できた

指定管理者（民間）の方の声が聞いて参考となった。市民や民間事業者が積極的にまちづくりに取り組んでいることが感じられた

CCRC というもののイメージを持っていなかったが、コルクえべつを見てイメージが合った

※参加者アンケートより

PICK UP!

ココルクえべつ



2021年9月全面オープンした、生涯活躍のまちのタウン型モデル。特別養護老人ホーム、介護老人保健施設、サ高住、グループホームなどが整備されたほか、レストランやパン工房（以上は就労継続支援A型事業所が

運営）、交流農園や交流広場、温泉施設、パークゴルフ場、会議室などが市民に開放されています。生活の場と訓練・就労の場を合わせて整備し、障がいのある方も住み慣れた地域で暮らし続けられる環境を整えています。



ココルクえべつでは、幅広い市民ニーズの把握や取組への主体的な参加の促進を目指して、オープン後の取組について市民

ワークショップで検討してきました。そこで出されたアイデアから、多世代交流サロンや出張古本市、江別の食と暮らしの体験イベントなど、様々なアクションが生まれています。



EBRI



長年市民に親しまれてきたレンガ造の工場をリノベーションし、地域の野菜などを扱う市場や江別のアンテナショップ、ハンドメイドのショップなど、江別の人との交流・江別の新商品開発・観光の拠点に生まれ変わりました。建物は登録有形文化財、近代化産業遺産となっています。



都市と農村の交流センター えみくる



農業が盛んな江別市で、農村地域の農家と都市部に住む市民との交流や農村地域のPRを目的に設立されました。野菜を使った加工や料理が可能な調理実習室やテストキッチンをはじめ、会議やサークル活動が可能な研修室、スポーツやBBQなどのイベントで使用出来る体育館・野球場・交流広場があります。各種料理教室や食育の取組なども行われています。テストキッチンには6次産業化の支援として、一般の方がなかなか購入できない高価な機器もあり、様々な商品づくりのトライアルの場ともなっていました。

「北の住みいるタウン」の取組の内容についてまとめたガイドブックをWEBでご紹介しています



発行：北海道（建設部 建設政策局 建設政策課）電話 011-204-5284（担当：内山）

編集：「北の住みいるタウンに係る普及啓発業務」受託事業者：株式会社石塚計画デザイン事務所

http://www.pref.hokkaido.lg.jp/kn/kks/kitasuma_top.htm

2022年11月発行



facebookページもご覧ください
「北の住みいるタウン」